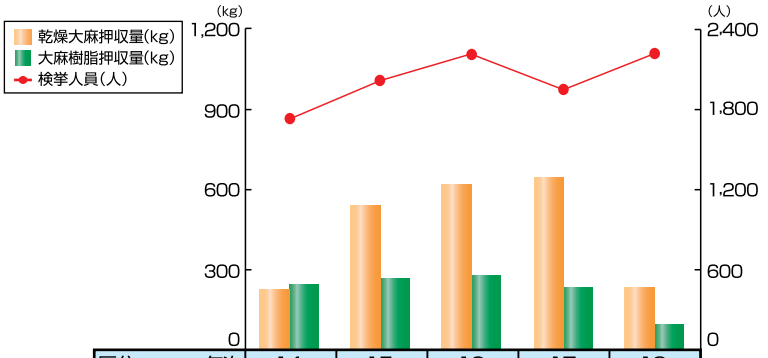
2. 大麻事犯

平成18年中の大麻事犯の検挙人員は、2,289人と過去最高を記録しました。暴力団構成員等が大幅に増加し、大麻事犯への関与傾向がみられます。また、検挙人員の約3分の2(66.7%)を未成年及び20歳代の若年層が占めています。

押収量は、乾燥大麻が225.8kg(前年比−417.3kg、−64.9%)、大麻樹脂が96.7kg(−133.8kg、−58.0%)と大幅に減少しました。

●大麻事犯検挙状況の推移(平成14〜18年)



区分	年次	14	15	16	17	18
検挙人員(人)		1,748	2,032	2,209	1,941	2,289
押収量(kg)	乾燥大麻	224.3	537.2	606.6	643	225.8
	大麻樹脂	244.1	267.0	294.5	230.5	96.7

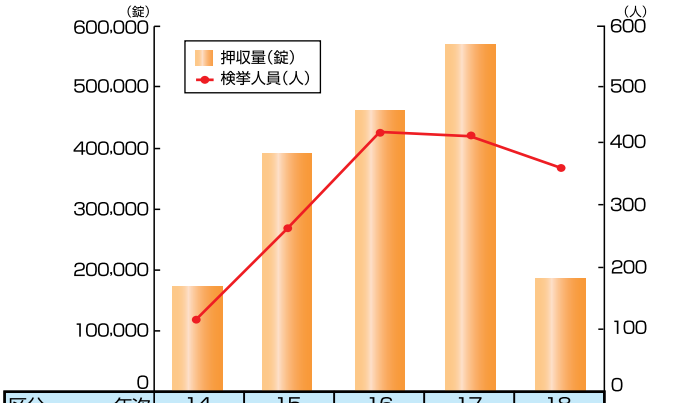
3. MDMA等合成麻薬事犯

平成18年中のMDMA等合成麻薬事犯の検挙人員は、370人と前年より減少しましたが、依然として、検挙人員の約3分の2(65.2%)を未成年及び20歳代の若年層が占め、引き続き、若年層の乱用が認められます。

押収量は、185,777錠と、過去最高であった前年と比べて大幅に減少しました。

●MDMA等合成麻薬事犯検挙状況の推移(平成14〜18年)

注:平成14年以降の押収量には、覚せい剤とMDMAの混合錠剤を含む。



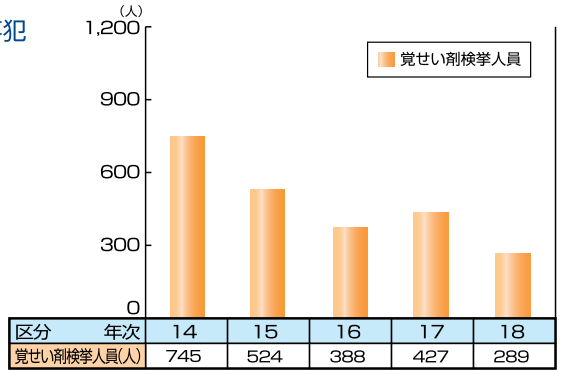
区分	年次	14	15	16	17	18
検挙人員(人)		117	256	417	403	370
押収量(錠)		174,259	393,088	469,126	571,522	185,777

4. 少年の薬物乱用

少年による覚せい剤、大麻、MDMA等合成麻薬等の薬物乱用は、依然として深刻な問題です。

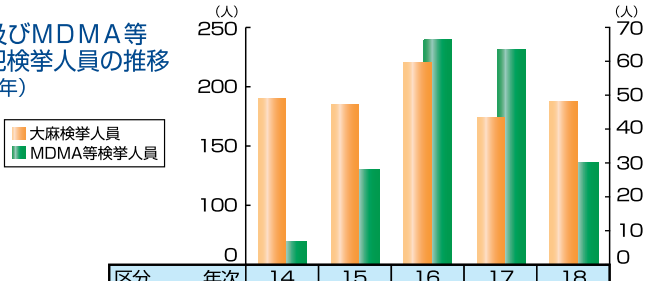
少年の薬物乱用の原因としては、薬物がダイエットや眠気覚ましに効果があるなどと誤った認識を持っていること、覚せい剤を「S(エス)」や「スピード」、MDMAを「エクスタシー」や「バツ」等と呼ぶなど薬物への抵抗感が希薄化していること、携帯電話、インターネットの普及等により少年が薬物に近づきやすい状況になっていることなどが挙げられます。

●少年の覚せい剤事犯検挙人員の推移(平成14〜18年)



区分	年次	14	15	16	17	18
覚せい剤検挙人員(人)		745	524	388	427	289

●少年の大麻及びMDMA等合成麻薬事犯検挙人員の推移(平成14〜18年)



区分	年次	14	15	16	17	18
大麻検挙人員(人)		190	185	221	174	187
MDMA等検挙人員(人)		7	29	67	63	31

※この資料に係る平成18年の数値は、平成19年1月10日現在の暫定値です。